

日高誠実教頭

幕末、既に
一人でアートミッ
クスを作った男が
市原に？

講師：相川孝夫 渡邊茂男

こんな人物が市原にいたなんて知らなかった。時代に埋もれたヒーローが蘇る！
山の奥地に梅の里を作り酪農を始め、市原の若者の集う学び舎を建設だってー

市原の偉人シリーズ。

明治に私塾「梅ヶ瀬書堂」を市原に開校し、後世の指導、産業開発、文化向上に尽くした人物像に迫ります。

なぜ彼はこれほどまでに市原での活動に拘ったのか？。今も地名として残る梅ヶ瀬は彼が山中に多くの梅を植樹したことが由来しています。

4/17(金) 15:00-16:00(渡邊)

「誠実を育んだ高鍋藩と明倫堂」
高鍋藩の明倫堂(めいりんどう)に学び、明治維新を経験し明倫堂の教授になった時期である。幕末という大きな変革の中で、坂本龍馬・西郷隆盛・大久保利通などが活躍したこの時代は誠實にどんな影響を与えたのだろうか。

4/22(土) 10:30-12:00(渡邊)

「東京陸軍出仕時代」創立間もない陸軍省に勤務した時期とする。陸軍省では、主に事務畑に従事していたようだ。これで一応生活は安定し、高鍋から家族を呼び寄せ、本人の持病の苦しみを除けば外面的には幸せな時期である。

4/29(土) 13:00-14:30(渡邊)

「梅ヶ瀬渓谷池見学」
「終の棲家」新緑の梅ヶ瀬を訪ね、明治時代のありし日々の様子に思いめぐらしてみましよう。

5/5(金) 13:00-14:30(渡邊)

「梅ヶ瀬の事業教育活動」
梅ヶ瀬では近隣十ヶ村の人々と共同して、梅の栽培・牧畜・養魚など様々な事業を経営し、また近隣の青年たちに学問を教授した。かつての主君秋月種樹(たねたつ)はじめ多くの文化人もこの地を訪ねている。

5/12(金) 15:00-16:00(相川)

「梅ヶ瀬会と誠実死後の継承活動」
日高誠実没後久留里城址資料館はじめて何度か遺墨展を実施。そうした活動を引き継ぎ、「梅ヶ瀬会」では、記念碑の建立や記念誌の発刊など地元で誠実顕彰を行っています。こうした活動の様子を「梅ヶ瀬会」の会長に語っていただきます。



Nobuzane Hidaka

1836－1915 幕末-明治時代の漢学者。
天保7年2月29日生まれ。日向(宮崎県)高鍋藩士。江戸で古賀謹一郎にまなび、明治元年藩校明倫堂教授となる。維新後、陸軍省にはいる。のち千葉県に私塾梅瀬書堂をひらいた。大正4年8月24日死去。79歳。